

**土岐市文化財保存活用拠点（仮称）
基本構想**

**令和4年3月
土岐市教育委員会**

目 次

第1章 検討経緯および現況の整理

- 1-1. これまでの検討経緯…………… 1
- 1-2. 社会環境と博物館を取り巻く環境の変化…………… 6
- 1-3. 土岐市の現況と課題…………… 7
- 1-4. 土岐市美濃陶磁歴史館の特性と課題……………10

第2章 基本的な考え方

- 2-1. 新博物館の設置意義……………13
- 2-2. 新博物館の理念とめざす姿……………14
- 2-3. 新博物館の使命と機能……………17
- 2-4. 新博物館の事業展開イメージ……………20

第3章 事業活動計画

- 3-1. 基本方針……………21
- 3-2. 博物館基盤機能—文化資源をまもり、ひらく—……………23
- 3-3. つながり機能—博物館活動をひらく—……………27
- 3-4. にぎわい機能—すべての人にひらく、まちにひらく—……………31
- 3-5. 期待される効果……………32

第4章 施設・収蔵計画

- 4-1. 施設整備の考え方……………33
- 4-2. 施設の機能構成……………35

第5章 展示計画

- 5-1. 展示全体の考え方……………37
- 5-2. 常設展示における展開テーマ……………41

第6章 管理運営計画

- 6-1. 管理運営の考え方……………42

第7章 今後の事業推進に向けて

- 7-1. 今後の検討課題……………44
- 7-2. 事業スケジュール……………46

資料編

土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想検討委員会概要……………	48
協働・連携に関するヒアリング……………	52
パブリックコメント……………	53
（参考）用語集……………	54

※本文中にある「※」印の用語の解説は、巻末の「(参考)用語集」に掲載しています。

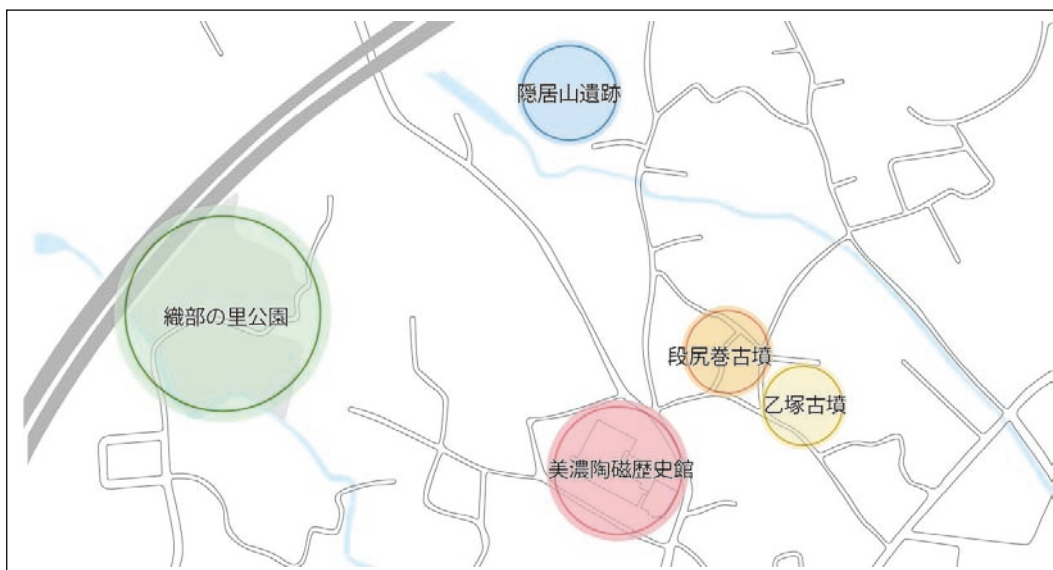
2. 土岐市文化財保存活用拠点（仮称）の構想に至る経緯

- 歴史館は開館 40 年以上が経過し、一体利用している旧文化会館（1972（昭和 47）年建設）とともに老朽化が進んでおり、収蔵場所の不足に加え、文化財の収蔵・展示に必要な調光調湿等管理が難しく、将来にわたって増え続ける文化財を受け継いでいくには厳しい状況にあります。
- このため、歴史館のあゆみを踏襲した新たな施設整備を必要としており、本構想においては、文化財の保存・活用に加え、周囲に点在する史跡の活用ならびに市域全体のにぎわい創出等を目的として、土岐市文化財保存活用拠点（仮称）（以下、「新博物館」と表記）が目指すべき基本理念や活動方針、施設機能等について整理します。
- なお、本構想では歴史館本体に加え、織部の里公園および周辺史跡も整備事業の対象として一体的に検討するものとします。

図表：歴史館の沿革

年度	出来事・概要
1979（昭和 54）年	土岐市美濃陶磁歴史館 開館
1993～2001（平成 5～13）年	元屋敷陶器窯跡の 6 次にわたる発掘調査
2003（平成 15）年	織部の里公園 オープン（窯跡周辺）
2011（平成 23）年	織部の里公園 拡張オープン（花菖蒲園周辺）
2013（平成 25）年	元屋敷陶器窯跡出土品 2,431 点が重要文化財に指定
2014（平成 26）年	旧文化会館（1972（昭和 47）年建築）を収蔵庫として用途変更
2020（令和 2）年度	文化財保存活用拠点（仮称）に係る有識者懇談会
2021（令和 3）年度	土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想

図表：本構想における事業対象



図表：土岐市文化財保存活用拠点（仮称）に係る有識者懇談会（抜粋）

<施設の方向性について>

- 新博物館は土岐市のアイデンティティ（＝土岐市とは何なのか）を示すものであると同時に、次世代の文化創造のための拠点として位置づけることが基本姿勢であってほしい。
- 市民との共生、ボランティア、学校教育との連携などを構想の中でしっかりと位置付ける。
- これからの博物館では、ユニバーサルデザイン*の視点が必須。
- 構想段階では様々な機能や役割を盛り込んでしまうが、体制に見合った活動を計画すべき。
- 学芸員と地域との交流が活発に行われること、市民のための施設であることが重要。
- 国宝も展示できる公開承認施設を基本としてほしい。

<展示関連>

- 「美濃桃山陶」と「土岐市の歴史」という軸を想定することは重要。
- 博物館の将来を担う世代育成という観点からも、子どもを対象とした展示・イベント等が必須。ハンズ・オン展示*やネットワークを使った配信の検討も図るべき。

<立地・建物・施設規模>

- JR 土岐市駅から徒歩圏にある唯一の美濃桃山陶の展示施設となる。
- 新博物館は、周辺エリアの歴史学習ゾーンへの始発駅としての役割を担ってほしい。
- 多目的に使えるような工夫や発展性のあるものであってほしい。
- 収蔵・展示、普及といった各分野で何が大事か、役割に応じた仕様と面積を考える。
- コンパクト、低予算ながらも建物には魅力を持たせてほしい。 など

■公開承認施設とは

国宝・重要文化財の公開にふさわしい施設として文化庁長官が承認する施設。手続きの簡便化や他館から資料借用を受けやすいといった利点がある。

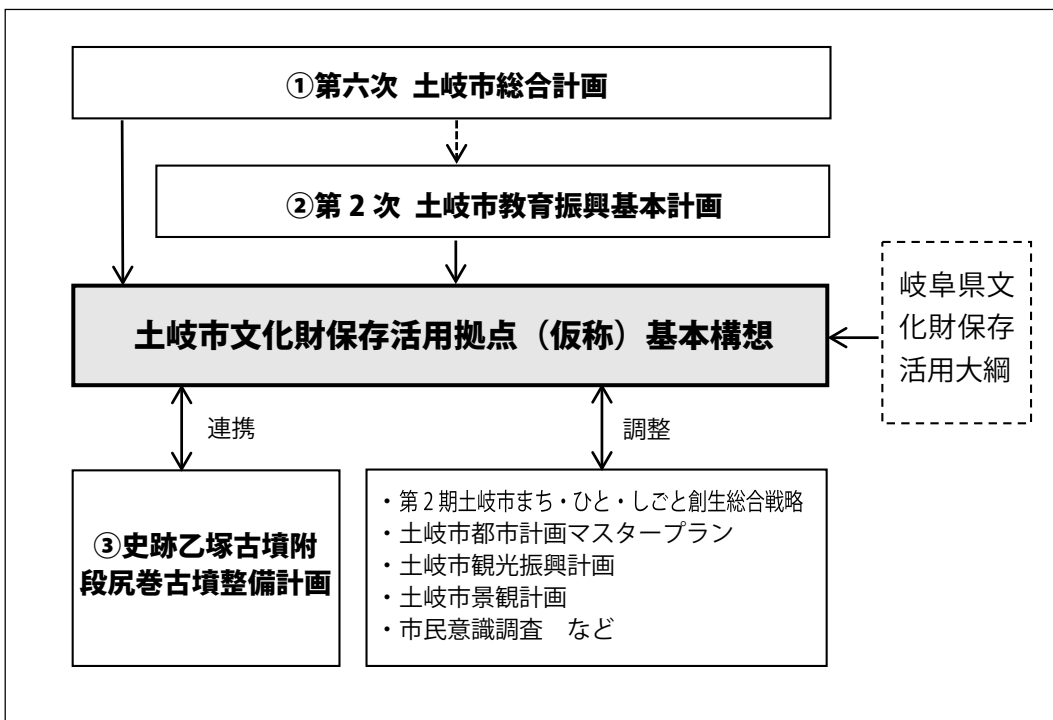
<承認基準>

- 重要文化財の保存・活用について専門的知識をもつ施設の長
- 学芸員資格をもつ専任者が2名以上
- 建物が耐火耐震構造で、内部が用途（展示・保存・管理）に応じて区分されるなどの防火措置
- 温湿度や照度など適切な保存環境を維持できる設備、防火および防犯の設備
- 同一の建物内に他の施設が併設されている場合、文化財保存・公開に係る設備が博物館専用のものであること
- 承認申請前5年間に重要文化財の公開を3回以上行った実績 など

3. 本構想の位置づけ

- 本構想に関わる上位・関連計画とその位置づけは、以下のとおりです。

図表：主な上位・関連計画との関連



①第六次 土岐市総合計画

まちの将来像：

人と自然と土が織りなす 交流文化都市

（前略）『人』は、土岐市に住み、土岐市で働き、土岐市で学び、土岐市に訪れる、土岐市に関わるすべての人を意味しています。『自然』は、市域の多くを占める緑豊かな丘陵や土岐三国山県立自然公園など、市内外に誇る豊かな自然環境を意味しています。『土』は、1400年以上の伝統を持つ美濃焼と美濃焼に関する歴史や産業を意味しています。

糸を織り上げて美しい織物を作るように、これら『人』、『自然』、『土』の3つの魅力を掛け合わせ、地域内外に情報発信することで、自然の恵みを楽しみ、美濃焼をはじめとした土岐市の受け継がれてきた文化や歴史を誇りに感じ、市内外の人が交流し、みんなで協力し、助け合い、幸せを実感できるまちを築き上げていくことを目指します。

②第2次 土岐市教育振興基本計画

<文化財の保存・活用>

- (前略) 今後は、地域住民や団体等との連携を視野に入れ、ふるさとへの理解を深め、愛着のもてる文化財の保存・活用を進めていく必要があります。

<郷土の歴史・文化の継承>

- (前略) 今後は、地域住民や団体等との連携を通じ、館外展示事業の実施等によって収蔵品の活用を図り、やきもの文化向上につなげていく必要があります。
- (前略) 国の重要文化財である元屋敷窯跡の出土品を保管していますが、美濃焼の歴史や郷土の歴史・文化を学習する場を整備するため、新たな施設の建設を検討します。

③史跡乙塚古墳附段尻巻古墳整備計画

<基本理念>

貴重な文化遺産である史跡乙塚古墳附段尻巻古墳を、市民の誇りとして保存・継承し、周囲の住宅環境との調和を図りながら、人々が学び、集い、安らぎ憩う場として整備する。

<整備活用の目標・基本方針(抜粋)>

- 歴史に触れて、学習できる場として活用する
 - 乙塚古墳附段尻巻古墳の持つ歴史的・文化財的価値が、誰にでも容易に理解できるように整備する。
 - 乙塚古墳附段尻巻古墳を媒体として、歴史・文化とのふれあいや、学習の機会を創る。
- 史跡公園的空間・住民交流の場としての環境を整える
 - 地域住民の憩いの場として利用が可能なように、休養施設や便益施設の整備を図る。
 - 土岐市のみならず、美濃を代表する横穴式石室を有する遺跡として、周辺諸施設との機能分担を図りつつ来訪者の受け入れができるような施設整備を行う。
- 地域のシンボル・モニュメントとして位置づける
 - 土岐市を代表する歴史的文化的拠点の一つとして、その価値の顕在化を念頭においた空間整備を図り、土岐市の地域づくりとも連動するシンボル・モニュメントとする。

1-2. 社会環境と博物館を取り巻く環境の変化

社会環境の変化

- 人口減少・超高齢社会への突入
- 価値観やライフスタイルの多様化
- IoT*や AI 技術*の進展
- SDGs*への取組、サステナビリティ*
- 新型コロナウイルス感染症の流行による生活様式の変化 など

博物館を取り巻く環境の変化

- 学習指導要領の改訂「主体的・対話的で深い学び」
- 「文化財保存活用大綱」の策定
- 交流の拠点、第三の居場所*などへのニーズ
- 新型コロナウイルス感染症の流行に伴うオンラインコンテンツ*への需要 など

- 日本では既に人口減少社会に突入しており、本市においても全国より約 12 年早く減少局面に入りました。また、総人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合が 30%を超えるなど、少子高齢化が進行しています。一方で、本市に居住する外国人割合は増加傾向にあります。
- 訪日外国人数は年々増加し、2019（令和元）年には約 3,188 万人を突破し過去最多を更新しましたが、2020（令和 2）年の新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴い、訪日外国人数および国内旅行者数は激減、その余波は続くと思定されています。博物館においても、入場制限やイベントの取りやめ、ハンズ・オン展示の休止など大きな影響を受けた一方、VR*見学や動画配信といったオンラインコンテンツの充実化が全国の博物館で見られました。
- 教育面では、学習指導要領が約 10 年ぶりに改訂され、2020（令和 2）年度より順次実施されます。「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向け、博物館をはじめとする社会教育施設の活用についてもうたわれています。
- 地域における文化財の総合的・計画的な保存活用を促進するため、文化財保護法の改正が行われました（2019（平成 31）年 4 月 1 日施行）。それを受け、岐阜県が策定した「岐阜県文化財保存活用大綱」では、博物館等における文化財の魅力に触れる機会の充実やデジタルアーカイブ*化、県民が文化財の保存・活用に参加できるしくみづくりなどの方針が示されています。
- 文化財の保存・活用といった本来の機能に加え、昨今の博物館においては、文化観光振興、連携・協働、交流促進、第三の居場所といった機能も求められています。

1-3. 土岐市の現況と課題

1. 「美濃焼発祥の地・やきもの生産量日本一」の唯一無二のまち

- 東濃地方で生産される陶磁器・美濃焼は国内陶磁器生産量の約半数を占め、美濃焼産地の中で生産量が最も多いのが本市です。しかし、通常、やきもの産地ではその地名とやきもの名前に結びつきが見られますが、美濃焼は東濃地方一帯を産地とすることから、本市が美濃焼の一大産地であることの認知度は高くありません。そのため、美濃焼における本市の存在感を高めることが求められています。
- 歴史館周辺の隠居山遺跡には、飛鳥時代の須恵器窯跡が残っており、東濃地方のやきもの文化の始まりの地とされています。また、本市は桃山時代を代表する美濃桃山陶生産の中心地だったという歴史的特性や、美濃焼産地の中で現在最も製陶業者が多く、時代のニーズに合わせて生産を行ってきたという特徴があるなど、現在も本市の基幹産業として市民の生活に根付いています。
- 一方で、従事者の高齢化に伴う担い手不足や後継者の育成が課題となっています。

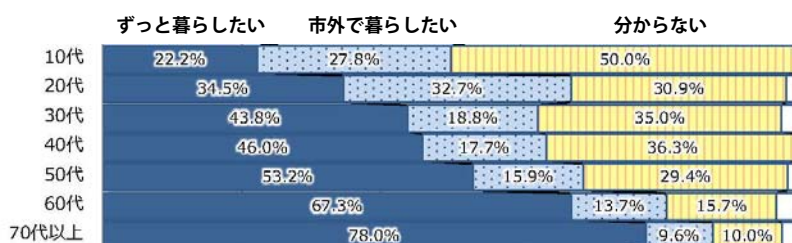


美濃焼は土岐市の象徴であり、東濃地方の中でも美濃桃山陶の中心であった土岐市だからこそ語れる歴史・文化を多数有している。そのポテンシャルを十分に発揮する、土岐市のみならず美濃焼のランドマークとしての役割が期待されている。

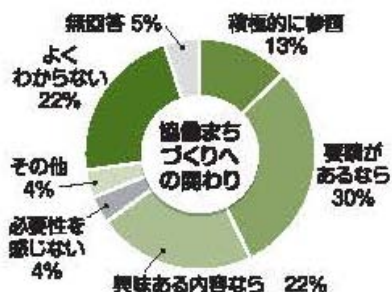
2. まちへの愛着の希薄化と市民参画意識の高まり

- 本市は 1955（昭和 30）年に 5 町 3 村が合併し誕生したまちですが、現在も合併前の地区ごとの個性や結びつきが見られます。
- 近年は市外からの転入者も多くなっている他、平成 30 年土岐市市民意識調査報告書によると、「今後も土岐で暮らしたい」と答えた割合は、10～20 代で 2～3 割にとどまるなど、若年層を中心に本市への愛着の希薄化が懸念されています。
- 一方、平成 26（2014）年度に行った市民・企業等との協働によるまちづくりに関する調査では、地域活動に関心を持つ市民や企業が一定数存在する結果も見られました。

図表：「今後も土岐市で暮らしたい」と答えた年齢別割合（出典：『平成 30 年土岐市市民意識調査報告書』）



図表：協働まちづくりへの関わり意識（出典：『第六次土岐市総合計画』）

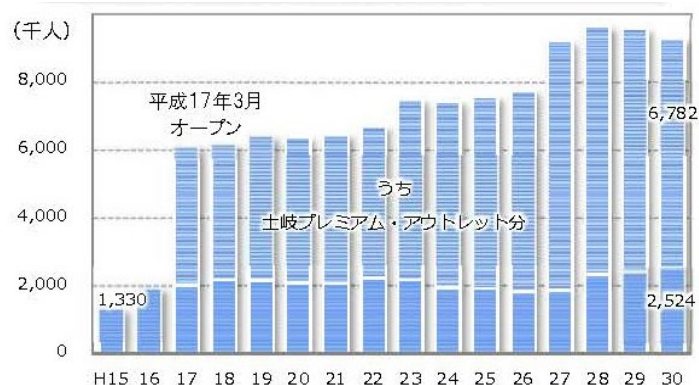


ふるさとである土岐市について知る機会や場をつくるとともに、多様なバックグラウンドや市民協働の潜在ニーズを活かした地域活動の展開が求められる。

3. JR 土岐市駅周辺の衰退・空洞化

- 本市の「土岐プレミアム・アウトレット」には年間 700 万人超が訪れ、岐阜県内で最多の入込客数として市内外から多くのビジターが訪れています。しかし、市内観光には結びついておらず、特に JR 土岐市駅周辺は商業の事業所数が減少するなど、観光の偏在が顕著となっています。今後は一点集中型ではなく、市域全体の回遊を促すしくみを構築し、さらなるにぎわいを展開していくことが求められます。
- 2020（令和元）年には、利用者の安全性・利便性の向上を目的に駅前広場の整備を行いました。また、歴史館も位置する泉地域について、土岐市都市計画マスタープランでは、駅周辺を本市の玄関口としてふさわしい特色のある景観形成を図るとともに、織部の里公園の充実化や歴史館の整備を通じた周辺資源等とのネットワーク化などを整備方針として掲げています。

図表：土岐市内観光入込客数の推移（出典：『2019 土岐市統計書』）



土岐プレミアム・アウトレットから JR 土岐市駅周辺への人の流れをつくるし
かけや、交通利便性のよい駅周辺を土岐観光の玄関口として、県内外より目的
をもって足を運びたくなる拠点の整備が必要とされる。

1-4. 土岐市美濃陶磁歴史館の特性と課題

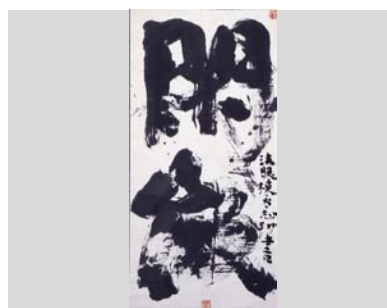
1. 歴史館の特性

(1) 美濃桃山陶をはじめとする多様な収蔵品

- 「元屋敷陶器窯跡出土品（国指定重要文化財）」は、歴史館における代表的な収蔵品で、2013（平成 25）年に 2,431 点が重要文化財に指定されています。
- その他にも美濃焼や書、絵画、民具等が約 6,000 点、考古資料が約 17,000 箱、古文書（現在は史料整理室が管理）が約 360 箱と多くの資料を収蔵しています。現在も発掘調査等により考古資料は増加傾向にあります。



黒織部茶碗（国指定重要文化財）



棟方志功書「閑徹」（二宮コレクション）

(2) 美濃焼の歴史を中心とした展示普及活動

- 歴史館には長きにわたる美濃桃山陶の調査・研究の実績があり、その情報の蓄積と展示（年 4 回：特別展 1 回・企画展 3 回）を行っています。近年は、専門性が高く全国規模で評価の高かった特別展に加え、新たな利用者層の取り込み等を目的に企画展テーマにも広がりを持たせており、年間入館者数は平均 5,000 名程度で推移しています。
- また、市内小学生を対象とした「ふるさと発見体験事業※」サポートや、学校団体向けの校外学習対応を行っています。歴史館を起点とする窯跡や古墳の見学に加え、陶片等を活用した観察やハンズ・オンなど、実践的・体験的な教育普及プログラムを展開しています（令和元年度実績：14 件）。
- 市内遺跡の発掘調査も継続的に実施しています（令和元年度実績：12 件）。



ふるさと発見体験事業



ふるさと発見体験事業

(3) アクセスや周辺環境、近隣博物館との連携・交流

- JR土岐市駅から徒歩10分の距離にあり、また複数のICからも近く、電車・自動車どちらのアクセスもよい歴史館の立地は強みと言えます。また、周辺には「元屋敷陶器窯跡（国指定史跡）」や「乙塚古墳附段尻巻古墳（国指定史跡）」、「隠居山遺跡（市指定史跡）」などの文化財が点在しています。
- 歴史館では美濃桃山陶を主なテーマとして扱いますが、東濃地方には美濃焼関連の展示施設が多くあり、それぞれ特徴ある活動を展開しています。各施設との連携は比較的活発で、「岐阜県博物館協会東濃ブロック部会*」や「東濃西部陶磁資料館ネットワーク会議*」等の組織体を中心に、様々な活動や交流が行われています。

図表：美濃焼関連展示施設マップ



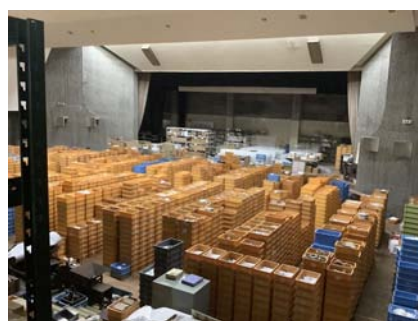
2. 歴史館における課題

- 歴史館における課題は以下のとおりです。これらの課題を踏まえ、事業活動や施設、展示、管理運営等の各計画を検討することが重要です。

<p>建物・設備の老朽化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収蔵庫として使用している旧文化会館の設備が古く、また、一部では雨漏りによる資料へのカビ発生など収蔵環境に影響を及ぼしている。 ・ 建物内の段差をはじめ、手洗い・エレベーター等の設備において、バリアフリーおよびユニバーサルデザインへの配慮が不足している。 など
<p>博物館としての機能不足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査研究や展示に使用する室が手狭なため、作業効率が低下している。 ・ 適切な保存環境を維持できる収蔵庫がなく、また、収蔵場所や資料が点在しているため、台帳整理等に支障をきたしている。 ・ 美濃桃山陶を理解するため、本市の歴史を知るための通史的な研究を行っているが、その成果を公開する常設展示スペースがない。 ・ 展示に関連したワークショップや講座・講演の実施や、学校団体等の学習に対応するスペースが不足しており、教育普及活動に支障をきたしている。 など



展示室



収蔵庫（ホール）



出土品の整理作業の様子

第2章 基本的な考え方

2-1. 新博物館の設置意義

- 前章の現況・課題を踏まえ、新博物館の設置意義について整理します。

土岐市の歴史や、日本でも特筆すべき陶磁文化、
その他の文化が知られていない、
ふるさとへの愛着が希薄化

**市民（特に子どもたち）がまちについて知り、
ふるさとへの誇りや愛着を感じる場や機会が必要**

施設の老朽化や機能低下

**美濃焼と土岐市の歴史・文化に関わる資料を
保存・活用し、その価値を伝え広めていくため、
また、より充実した博物館活動を行うために必要**

JR 土岐市駅周辺の衰退、交流人口の減少

**市民やビジターが気軽に集い、活動・交流し、
にぎわいを生み出す場が必要。また、地域での保護の担い手
減少に伴い、消滅危機にある文化資源保存のために必要**

**新博物館の設置により、
これらの現況の改善、課題解決に取り組みます。**

2-2. 新博物館の理念とめざす姿

理念

開かれた扉

—豊かな文化資源を蓄え、市民とともに
新たな文化を創造し、土岐市の未来をひらく—

土岐市には風土に育まれた歴史と文化があり、
それらを知る手がかりとなる貴重な文化資源があります。
新博物館は土岐市の多様な文化資源を蓄え、市民とともに活用し、
豊かな地域社会をつくり、未来へとつなげていく拠点となります。

目的①

指定文化財を含む
文化資源の保存

- 本市の貴重な文化資源を次の世代にしっかりと伝えること。
- 保存・活用のバランスを図りつつ、公開承認施設に相当する展示・収蔵環境を整備すること。

目的②

文化資源を活用した
学びや交流の創出

- 本市の歴史・文化をテーマとした市民の学びや、大学、企業、ビジター等との多様な交流を創出すること。それらがまた新たな活動を生み出し、まち全体のにぎわいや成長へ寄与すること。

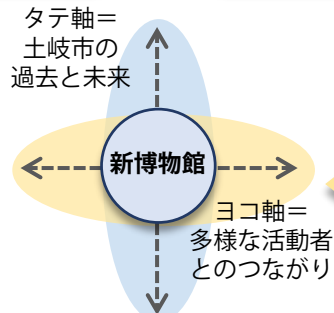
めざす姿

文化資源を守るとともに、
ふるさとへの愛着や誇りが育つ、
次代へつなげるミュージアム

=過去に学び、未来につなげる
タテ軸のベクトル

多様な市民や団体と
ともに学び、つながり、
活動が広がり続けるミュージアム

=多様な活動者とのつながりを広げる
ヨコ軸のベクトル

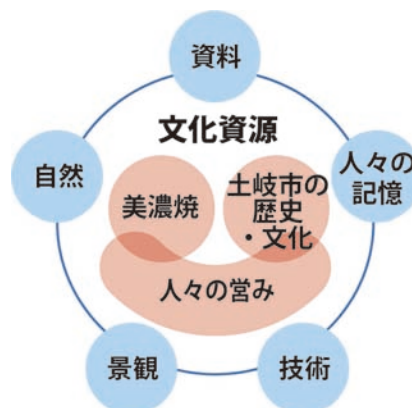


タテ・ヨコ両軸のベクトルを広げていくことが重要

1. 新博物館が対象とするもの・テーマ

- 新博物館では「文化資源」を対象とした展示や活動を行います。「文化資源」とは、モノ（資料）だけでなく、人々の記憶、技術、景観、自然など、地域社会と文化を知るための手がかりとなる有形無形の資料の総体を指し、さらに、今あるものを活用し、新たな文化を生み出す資源となるものとして捉えます。
- 未だ資源と捉えられていないモノ・コト・ヒトも、新たに文化資源化していくことを目指します。
- それら文化資源の中で、「人々の営み」という視点を基礎として、特に「美濃焼」「土岐市の歴史・文化」を新博物館のテーマとして扱います。

図表：文化資源の考え方



(1) 美濃焼

- 美濃焼は7世紀に始まり、1400年にわたり連綿と生産が続けられ、現在も日本最大の窯業地であり続けています。桃山期に生まれた美濃桃山陶は日本文化を代表するものであり、また、本市の基幹産業としての美濃焼は土岐市の代名詞であり、新博物館に欠かせないテーマと位置付けられます。

(2) 土岐市の歴史・文化

- この土地の成り立ちや風土に根差した歴史・文化を広くテーマとして扱います。
- 歴史に名を残す偉人から庶民まで、土岐という地に生きた人々の営みという視点を基礎とします。

2. 新博物館が対象とする人（ターゲットの考え方）

- 「開かれた扉」を目指す新博物館では、本市に住み、働き、学ぶ人々、本市を訪れる多様な人々を対象とします。また、SDGs の考え方や社会教育施設としての側面も考慮し「誰一人取り残さない」博物館活動を行います。
- 特に本市の未来を担う子どもたちの「ふるさと学習」の場となることが重要で、本市への誇りや愛着を感じられるとともに、訪れた子どもたちが将来保護者として再び利用する、あるいは地域文化へ興味を持ち生涯学習の場として利用するなど、次代につながる循環型の利用を目指します。
- 本市の主要観光地である土岐プレミアム・アウトレットをはじめ、鉄道や自動車交通の利便性を活かして、市内外よりこれまで以上の誘客を図ります。
- また、現状のメイン利用者である織部焼や元屋敷窯跡への根強いファン向けの美濃桃山陶を中心とする展示や、市民の関心が比較的高い古墳や近世・近代の歴史等の展示・活動についても充実化を図る必要があります。さらに、美濃焼の歴史・文化をアーカイブし美濃焼に携わる人々へ向けて発信するなど、窯業地ならではの地域博物館として、従事者や作り手（クリエイター）等の活動を支援します。

図表：ターゲットの考え方

土岐市民	土岐市を訪れる人々
<ul style="list-style-type: none"> ● <u>子どもたち（小中学生）</u> ● 高校生や大学生 ● 高齢者 ● 多様な活動者や団体 ● 地域住民 ● 美濃焼に携わる人々 ● 障がい者 ● 未就学児、乳幼児連れ など 	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジター ● 美濃焼や歴史ファン ● 作り手（クリエイター） ● 障がい者 ● 高齢者 ● 国内外からの観光客 ● マイクロツーリズム※利用者 ● オンライン利用者 など

2-3. 新博物館の使命と機能

1. 新博物館の使命

- 新博物館は、人々の営みを基礎とした「美濃焼」「土岐市の歴史・文化」をテーマとする本市の文化資源に関する調査研究を核に、その成果を展示や活動を通じ還元します。また、多様な市民と協働した種々の活動により新たな文化を創造し、豊かな地域社会をつくり、本市の未来をひらく拠点としての役割を果たします。

①土岐市の歴史や文化を守り、未来に伝える

土岐市の歴史・文化に関する調査研究を行うとともに、文化資源の収集と保存、生涯学習などへの積極的な活用を通じ、次代に継承します。

②美濃桃山陶をはじめとする美濃焼 1400 年の歴史・文化を発信する

東濃地方を物語る美濃焼の歴史・文化についての調査研究を引き続き行い、その成果を展示や活動を通じ、国内外に発信します。

③市民をはじめ、大学・企業等と連携した活動を展開する

市民を中心に、市内外の団体や研究機関、大学、企業等と協働・連携した博物館活動を行うとともに、そのネットワークを強化し活動の充実化を図ります。

④文化資源を結び、美濃焼や土岐市の魅力に出会う入口となる

市内に点在する様々な文化資源の中核的施設として、市民やビジター向けの情報発信を行い、市域全体のにぎわい創出に寄与します。

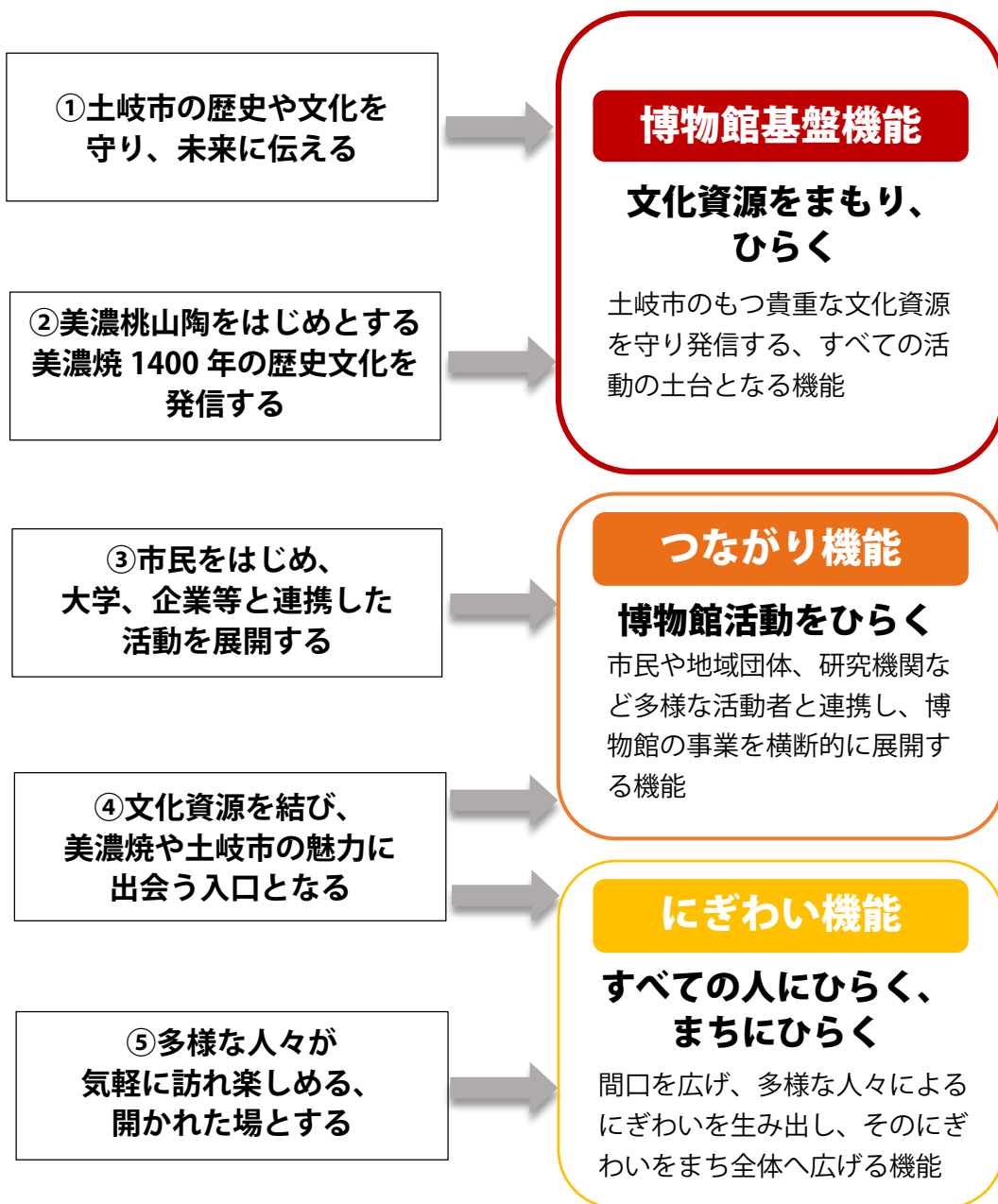
⑤多様な人々が気軽に訪れ楽しめる、開かれた場とする

多様な市民やビジターが集い、交流する“ユニバーサルミュージアム”として、誰もが楽しめる展示や活動を展開します。

2. 求められる機能

- 前項の使命を果たすために求められる新博物館の機能は、以下のとおりです。

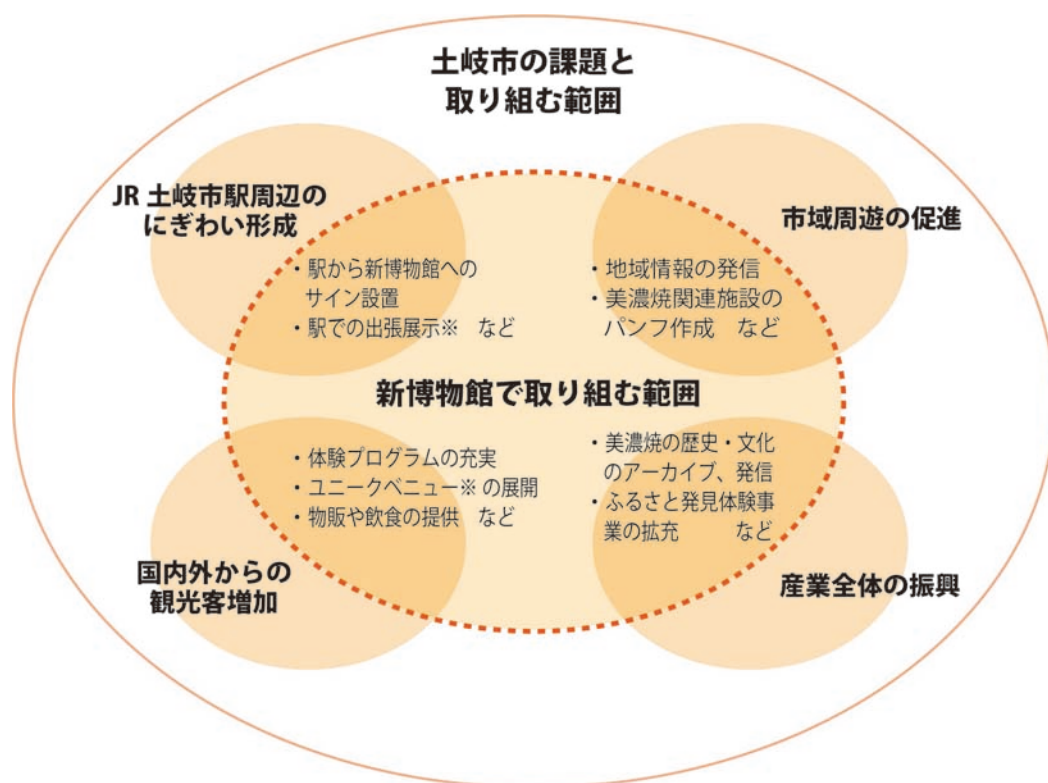
図表：使命と機能の関連



3. 課題解決のために新博物館が取り組む範囲

- 前項で示した3つの機能のうち、「博物館基盤機能」は本市のもつ貴重な文化資源を守り発信する、すべての活動の土台となる機能として、これまでの活動実績を活かしながら新博物館が中心的・積極的に推進します。
- 「つながり機能」および「にぎわい機能」については、博物館のみにとどまらず本市が一体となって取り組むことが重要です。新博物館では文化資源に係る範囲を対象としながら、庁内各部署との連携・分担により本市の地域的・社会的課題（「1-3.土岐市の現況と課題」参照）の解決に努めるものとします。
- 各機能における、本市あるいは新博物館で取り組む内容の具体化については、今後各部署との調整を図りながら、基本計画にて検討することとします。

図表：「にぎわい機能」における連携・分担の例



2-4. 新博物館の事業展開イメージ

理念

開かれた扉

—豊かな文化資源を蓄え、市民とともに新たな文化を創造し、土岐市の未来をひらく—

つながり機能

博物館活動をひらく

市民や地域団体、研究機関など多様な活動者と連携し、博物館の事業を横断的に展開する機能

土岐市の文化資源を活用したあらゆる館活動を多様な市民や団体等と連携して行うほか、その連携ネットワークを強化するなどし、より充実した博物館活動を展開します。

博物館基盤機能

文化資源をまもり、ひらく

土岐市のもつ貴重な文化資源を守り発信する、すべての活動の土台となる機能

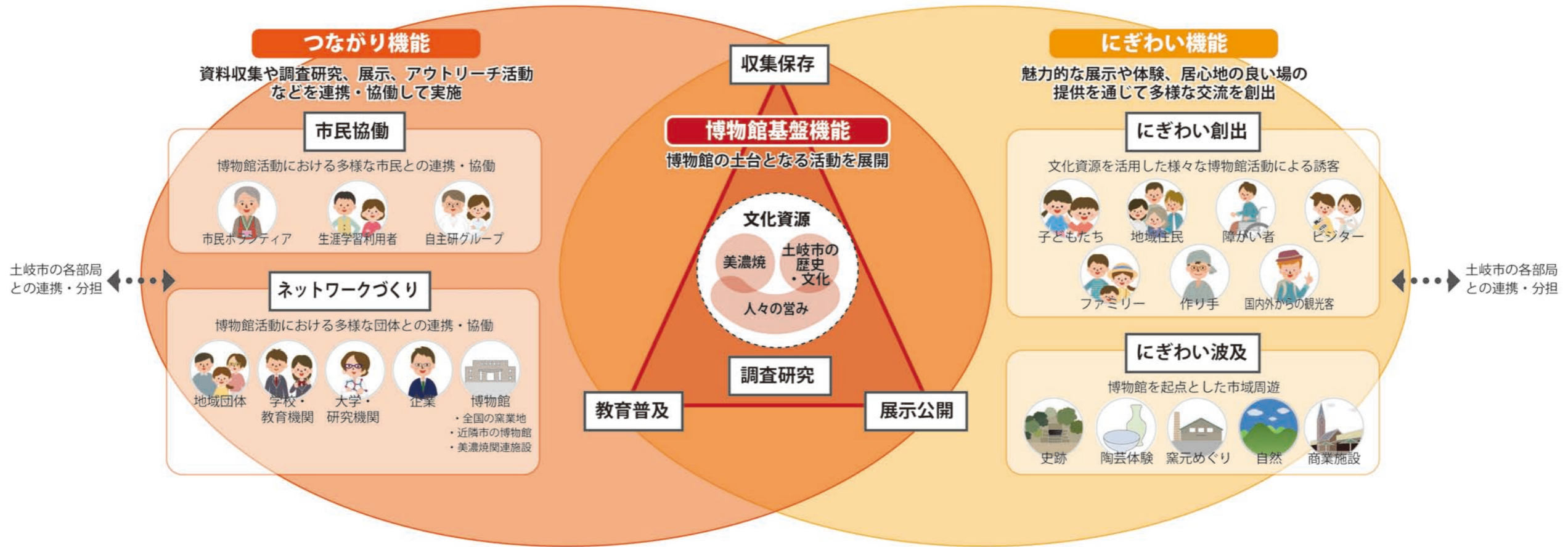
土岐市の文化資源を核に、これまでの活動実績を活かしながら、「調査研究」「収集保存」「展示公開」「教育普及」といった博物館の土台となる機能の拡充・強化を図ります。

にぎわい機能

すべての人にひらく、まちにひらく

間口を広げ、多様な人々によるにぎわいを生み出し、そのにぎわいをまち全体へ広げる機能

土岐市の文化資源を活用した、市民・ビジターの来訪意欲を高める工夫や市域回遊を促すしかけにより、新博物館のにぎわいを創出、そしてまち全体のにぎわい波及を目指します。



<期待される効果> " 土岐市の未来をひらく "

- 市民が、人々の営みを基礎とする「美濃焼」「土岐市の歴史・文化」に触れ、親しむ場や機会・きっかけを創出し、シビックプライド（＝ふるさとへの誇りや愛着）や自分の言葉でふるさと・日本の魅力を語れるアイデンティティを醸成、土岐市が有する文化資源を保存・継承
- 文化資源を活用した多様且つ継続的な活動が、まちの活性化やにぎわい創出をはじめとする土岐市全体の地域的・社会的課題の解決に寄与

第3章 事業活動計画

3-1. 基本方針

1. 事業活動方針

- 前章で示した3つの機能に基づく事業活動方針は以下のとおりです。事業活動方針を新博物館における活動の拠りどころとし、これらの充実により、新博物館の理念「開かれた扉」の実現を目指します。

①

人々の営みを基礎とする
「美濃焼」と「土岐市の歴史・文化」の
掘り起こし・発信・共有

②

市民や多様な活動者とともに
活動・成長し続ける拠点づくり

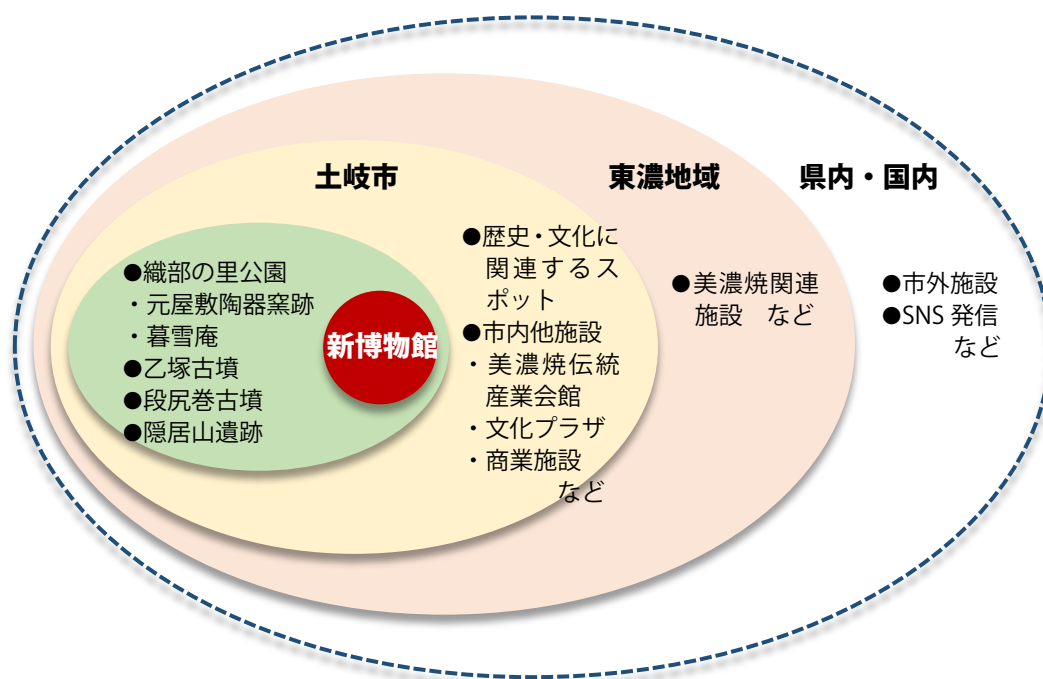
③

訪れるすべての人を対象とする、
文化資源を活かした地域の新たな価値の創造

2. 事業活動を行う範囲

- 新博物館では、立地条件を活かし、隣接する織部の里公園や周辺史跡を一体のフィールドとした展示や活動を行い、エリア内の回遊を活性化します。また、イベント等では本市の歴史・文化に関連するスポットを活用するなど、市域全体を事業活動の展開範囲として捉えます。
- 市民や多様な活動者との協働・連携事業においては、新博物館だけでなく、市民の生涯学習活動や交流を促進する市内他施設も活用します。また、展示やイベントの出張時には、商業施設含む市内外施設等も展開場所として検討します。

図表：新博物館を中心とする事業活動の範囲



3-2. 博物館基盤機能－文化資源をまもり、ひらく－

- 「文化資源をまもり、ひらく」ために、歴史館において課題となっている展示や収蔵環境などを見直し、公開承認施設に相当する施設の整備へ向けて、以下の事業を展開します。

1. 調査研究

- 本市には美濃焼 1400 年の歴史があり、これまで歴史館では主に元屋敷窯跡出土品と美濃桃山陶を中心とした調査研究が行われてきました。今後は、それらに加え、土岐市と近隣地域の歴史・文化やそれらを支えてきた人々に関わるテーマも扱うなど、博物館活動の根幹を担う調査研究の充実を図ります。
- 調査研究活動においては、市民をはじめ、他の博物館や大学・研究機関、企業等とも連携を図り、より幅広く継続的な調査研究活動を行います（地域学）。
- 本市や博物館活動への興味・関心を高めるため、調査研究の成果を新博物館やホームページ内で広く公開するとともに、資料整理等の様子の見える化も検討します。

■必要となる諸室（例）

調査室／資料整理室（考古・古文書・美術工芸）／図書室 など

※資料整理室に公開用窓を設置することなどを想定

※「つながり機能」の充実へ向けて、市民等との共同利用を想定したスペース・設備の設置も検討

2. 収集保存

- 美濃焼の歴史や本市の歴史・文化を伝える有形無形の文化資源を収集し、目的や用途に応じた分類・整理、適切な収蔵環境のもとでの保存を行います。

(1) 収集

- 収集にあたっては、これまでの実績を活かした新博物館による独自の活動のほか、市民や大学・研究機関、企業等と連携して実施します。
- 基本的には新博物館のテーマに関する文化資源の体系的な収集を想定しますが、限られた収蔵スペースを有効活用するため、東濃地域の博物館間での分担の可能性も含め、具体的な収集方針については今後の検討とします。

(2) 分類・整理

- 収集した資料は汚染物質を除去したうえで、必要に応じて修復や保存処理等を実施します。また、来歴確認や計測、写真撮影等を行い、資料情報を整理します。
- 資料情報を資料台帳等のデータベースに登録し、貸出履歴や保管場所等が分かるよう管理します。なお、資料情報のデータベース化については現在作業を開始しており、将来的には市民が行う研究での活用やホームページ等での公開も検討します。

(3) 保存

- 資料の材質や形状、状態等に応じて、温湿度管理等に配慮した適切な保存環境のもと収蔵します。また、火災や洪水等の災害、盗難等に加え、IPM*を導入し収蔵庫の仕様や施設内での配置に留意します。
- 今後、博物館活動の充実に伴う寄贈・寄託資料や市内遺跡の発掘調査等による考古資料の増加が想定されます。将来的な収蔵資料の増加に対応できる空間の確保や集密ラック等による収蔵庫内の省スペース化も検討します。
- 本年、現状の収蔵資料量・環境等を確認するために収蔵資料調査を実施しました。調査の結果より、歴史館の資料すべてを新博物館に移設することは難しいことが分かり、今後館外保管など資料の収集場所について検討を行う必要があります。

■収蔵資料調査の結果概要

- 歴史館の資料は旧文化会館を中心に、土岐市美濃焼伝統産業会館、土岐市文化プラザ、土岐市陶磁器試験場にも一部保管されている。
- 資料の約7割は出土資料である。
- 試算では、同場所に棚に適正な状態で保管した場合、1,600 m³程度必要と想定される。 など

■必要となる諸室（例）

収蔵庫（資料種別ごと・前室含む）／一時保管庫／搬入口・荷解室 など
※情報システム面での取組として、資料データベースの構築が必要

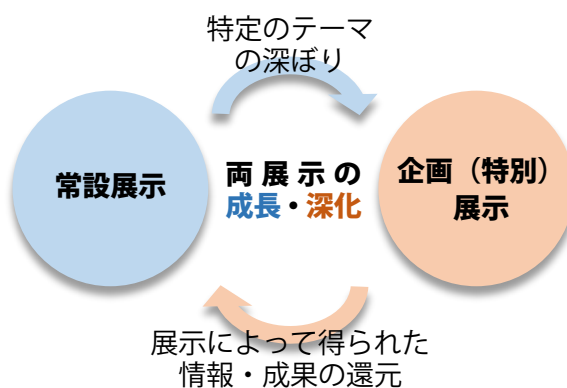
3. 展示公開

- 調査研究や収集保存等の各事業の成果について、展示公開を通じて市民やビジターに広く還元し、すべての利用者が本市や美濃焼への理解を深めることを目指します。
- 子どもたちや障がい者など、誰もが楽しめる体験展示やハンズ・オン展示、デジタル技術を使った展示など、多彩な手法を組み合わせる展開します。また、展示物の高さや通路幅等にも配慮します。
- なお、展示に関する具体的な展開については、第5章「展示計画」に記載します。

(1) 展示を通じた公開

- 新博物館の展示は「常設展示」と「企画（特別）展示」で構成します。常設展示は2室からなり、展示①は美濃焼1,400年の流れと本市の歴史・文化がつながる展示とし、展示②は「特別美術展示室」による美濃桃山陶や絵画等を鑑賞する展示とします。企画（特別）展示では美濃焼や本市の歴史・文化を多様な視点で取り上げ、展示の規模によっては「特別美術展示室」も用いて、借用した重要文化財の展示も行います。
- 常設展示は、開館時に完成させるのではなく、企画（特別）展示で得られた情報・成果をその都度反映させ、更新していく展示とします。
- その他に、元屋敷窯跡出土の重要文化財等を保管する収蔵庫や資料整理の様子を可視化する「バックヤード*展示」、元屋敷窯跡や乙塚古墳、段尻巻古墳等を紹介する「屋外展示」、また、市民や大学・研究機関等による活動成果やまちめぐり情報を発信するギャラリースペースも設け、新博物館を起点とする市域の回遊につなげます。
- さらに、美濃焼や本市の歴史・文化に気軽に親んでもらうため、また、新博物館の活動を周知し、より多くの人々に博物館に足を運んでもらうきっかけとして、出張展示等の展開も検討します。

図表：常設展示と企画（特別）展示の関連



(2) 出版物やホームページ等を通じた公開

- 館内での展示公開とともに、展示図録や研究紀要等の出版物、ホームページ等を通じて新博物館の事業成果を公開します。
- 特にコロナ禍では、ホームページや SNS 等を活用したオンラインコンテンツの充実が進みました。アフター・コロナ時代においても、ホンモノとデジタルを組み合わせた情報発信を行い、より多くのニーズへ向けた展示公開のしくみを検討します。

■必要となる諸室（例）

常設展示室／特別美術展示室／企画（特別）展示室／ギャラリースペース
／展示準備室 など

※特別美術展示室には、他館から借用する重要文化財も展示できるスペック
（展示環境に配慮した室・設備）を備える

※収蔵展示は収蔵庫に公開用窓を設置することなどを想定

※ホームページ等におけるコンテンツの充実化も検討

4. 教育普及

- 現在行っている市民向け講座や市内小学校向けの「ふるさと発見体験事業」に加え、より幅広い年代へ向けた市民教育プログラムを行います。プログラムの開発や実施については市民とも連携して取り組みます。
- 特に「ふるさと発見体験事業」は、歴史館においても特に力を入れて取り組んでいる事業で、子どもたちのふるさとへの誇りや愛着醸成の大きなきっかけとして、新博物館でも引き続き充実化を図っていきます。
- また、生涯学習の一環として本市の歴史・文化に関する研究を行う市民等に対しては、一人ひとりの学習ニーズに応じた資料・情報提供を行い、その活動を支援します。

■必要となる諸室（例）

セミナールーム／体験室（工房）／図書室 など

※セミナールームは、学校団体がオリエンテーションや昼食場所として使用するスペースとしても想定

3-3. つながり機能－博物館活動をひらく－

- 市民協働による博物館活動の推進や地域団体、研究機関等との連携を強化し「博物館活動をひらく」ことで、館の活動がより一層充実したものとなります。多様な市民や団体による能動的且つ継続的な活動が、新博物館や本市への親しみ・愛着を形成し持続可能な博物館を実現します。

1. 市民協働

- 市民とともに行う調査研究や展示等の機会の充実を図るとともに、その活動・成果発信のためのスペースを整備します。
- 多様な世代の市民一人ひとりのニーズに応じた活動をバックアップすることで、やがて主体的な活動者として新博物館や地域で活躍する人材の育成を目指します。

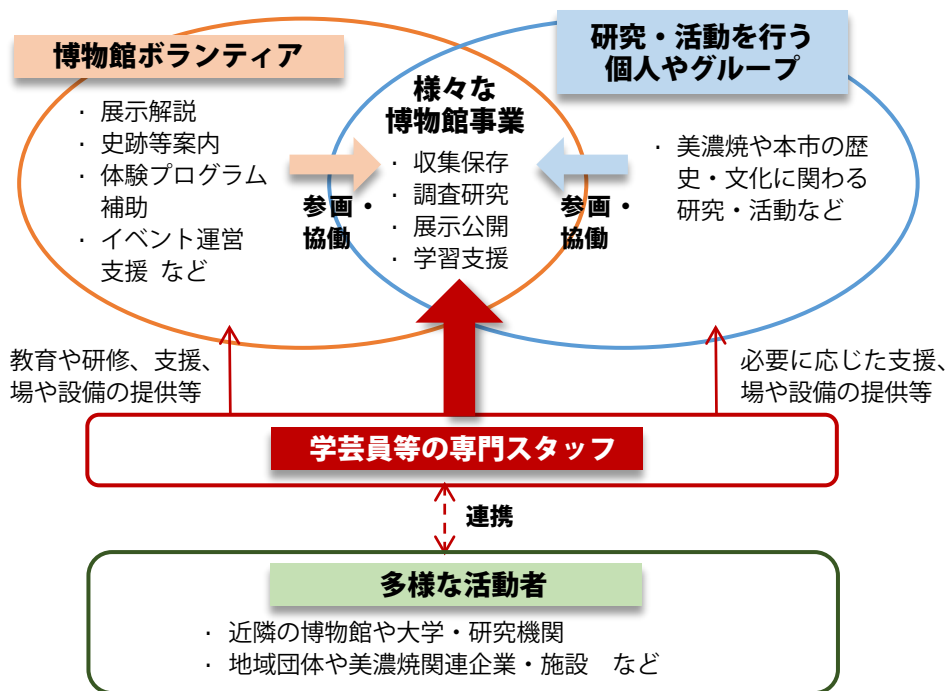
(1) 博物館ボランティアについて

- 様々な事業における市民協働のしくみの一つとして、博物館ボランティア制度を新たに設けることを検討します。
- 博物館ボランティアは、利用者の学習支援や博物館と利用者をつなぐ役割として、展示解説や体験プログラムの補助等を行うことが一般的です。しかし、活動の中で博物館事業に興味・関心を持ち、より根幹の部分に携わりたいと考えるボランティアに関しては、学芸員等とともに調査研究や展示を行うなど、それぞれの興味や時間に応じて様々なレベルで参画できることが望ましいと考えます。
- 博物館ボランティアには本市の歴史・文化に対する知見が求められるため、初期養成やフォローアップの研修等を通じた育成が必要となりますが、あくまでもボランティアであることから、運営上必要な労働力を補う目的での制度ではないものとして活動範囲を設定することが重要です。

(2) 研究・活動を行う個人やグループについて

- 自ら学ぶ場、生涯学習の場として博物館を利用する個人やグループ等へ向けには、資料閲覧など必要に応じた支援や、研究・活動に必要な場や設備の提供等を行います。
- その中で、学芸員とともに様々な事業を行ったり、自身の研究・活動成果等を博物館の展示や体験に還元したりしたいと考える活動者については、参画・協働できるしくみを整えるなどし、より充実した博物館活動の展開を実現します。
- 博物館ボランティアをはじめ、これらの市民協働のしくみは一朝一夕で構築されるものではないため、新博物館の準備期より事業の試行等により試行錯誤を重ねながら、開館以降のスムーズな運営につなげます。

図表：協働・連携イメージ



2. ネットワークづくり

- 現在歴史館では、「岐阜県博物館協会東濃ブロック部会」や「東濃西部陶磁資料館ネットワーク会議」等の組織体を中心に、近隣博物館と連携した博物館活動を展開しています。今後は、既存の連携事業の強化に加え、全国の窯業地の博物館や桃山陶の伝世品を伝える美術館等との新たな連携を通じ、展示や活動のより一層の充実を図ります。
- また、資料収集においては、将来スペース含めた収蔵庫の有効活用を図るため、東濃地域の博物館間で分担して行うことも検討します。
- 大学・研究機関等の多様な活動者とのネットワークを中長期的に構築し、各団体等と連携した調査研究や展示、イベント等の事業展開を行います。
- このような連携を行うメリットとして、それぞれの専門性を補うことによる活動の相乗効果や利用ターゲット層の拡大、本市のブランド力向上などが挙げられます。

図表：他の博物館や多様な活動者との連携例

分類	活動団体（例）	連携内容（例）
博物館	多治見市・瑞浪市・可児市の博物館、全国の窯業地の博物館や桃山陶の伝世品を伝える美術館 など	<ul style="list-style-type: none"> ● 共同調査研究 ● 共通のテーマ展示、イベントの共同開催 ● 資料の分担収集 など
大学・研究機関	土岐市立陶磁器試験場、本市と連携協定のある大学、窯跡・消費地遺跡を持つ埋蔵文化財センターなど	<ul style="list-style-type: none"> ● 共同調査研究 ● 講座や講演等の共同開催など
地域団体	市内を中心に活動している団体など	<ul style="list-style-type: none"> ● イベント等の共同開催 ● 展示・活動スペースの貸出など
美濃焼関連企業・施設	美濃焼関連企業や団体、美濃焼伝統産業会館 など	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料や情報の提供 ● 学習プログラムの共同開発など

■必要となる諸室（例）

市民研究室／ギャラリースペース／博物館ボランティア室 など

※体制面として、博物館ボランティアやネットワークに関する組織化を検討

図表：連携・協働事業に関するロードマップ（例）

フェーズ		ねらい・ゴール
設立準備期	基本構想	現状の課題や要望等を整理し、協働・連携に関するロードマップを作成・共有する。
	基本計画	協働・連携可能性のある方々へのヒアリングや実際のプレ事業を行いながら、協働・連携に関するしくみの骨子をつくる。
	基本設計・実施設計	協働・連携の体制の組織化も考慮し、しくみの具体化を図る。また、市民等へ新博物館のPR活動を行い、市民参画の機運を醸成する。
	工事・製作	協働・連携体制を組織化し、開館時の協働・連携事業（展示やイベント等）へ向けた準備を行う。引き続き、機運醸成のためのPR活動を行う。
開館初動期	開館 1 年目～	協働・連携事業の実施とフィードバックを行いながら、体制や活動の充実化を図る。
通常期	開館 5 年目～	

3-4. にぎわい機能－すべての人にひろく、まちにひろく－

- 新博物館では、建物のバリアフリー化はもちろんのこと、展示や活動においてユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、年齢や国籍、障がいの有無に関わらずすべての人が学び、楽しめる博物館を目指します。
- また、市民やビジターによる多様な交流を生み出すために、博物館の“敷居の高い非日常的な場所”というイメージを転換することも重要です。新博物館の強みであるアクセスの良さや文化資源の集約性を活かし、気軽に利用しやすい場を備えます。

1. にぎわい創出

- すべての利用者が楽しめるよう、ユニバーサルデザインに則った活動を行います。施設整備の面では、館内外における段差解消や車いすの設置、サイン・グラフィック*における文字サイズや配色への配慮など、展示・活動面では、触れる展示や体験型の展示の他、あらゆる対象へ向けた交流型体験プログラムの検討などが考えられます。
- 国内外からの観光客へ向けて、施設サインや展示解説等における多言語対応も検討します。
- 市民やビジターが居心地よく過ごせる場や足を運んでみたくなるしかけとして、たとえば、美濃焼の販売等を行う物販機能やロケーションを活かした憩い・飲食機能等が考えられます。また、新博物館により親しみを持ってもらうため、ユニークベニュー等の展開も含め、文化資源や周辺環境を活かした取組を検討します。

2. にぎわい波及

- 新博物館を起点とした市域周遊が促進されるよう、市内観光スポット等の情報発信を強化します。また、各スポット等におけるサインの設置やそのデザイン統一化等についても検討を行います。
- 美濃焼や本市の歴史・文化や館活動を広く発信するため、市内外への出張展示やイベント出展等も検討します。

■必要となる諸室（例）

ショップ／カフェ／キッズスペース／地域情報発信スペース など

3-5. 期待される効果

- 事業活動方針を基に、より多くの市民やビジターが、人々の営みを基礎とする美濃焼や本市の歴史・文化に触れ、親しむ場や機会・きっかけを創出します。そのことにより、シビックプライド（＝ふるさとへの誇りや愛着）や自分の言葉でふるさと・日本の魅力を語れるアイデンティティの醸成、本市が有する文化資源の保存・継承を図り、より一層の文化振興を目指します。
- また、文化資源の活用をベースとする多様且つ継続的な活動は、やがて新たな文化を創造し、豊かな地域社会をつくれます。それは、まちの活性化やにぎわい創出をはじめとする本市の地域的・社会的課題の解決を通じて、“土岐市の未来をひらく”ことに寄与すると期待されます。

第4章 施設・収蔵計画

4-1. 施設整備の考え方

1. 基本方針

- 施設整備にあたっては、以下の方針のもとに推進します。

1 博物館の基盤となる機能の充実・強化

- 本市の多様な文化資源を保存・活用するための諸室や設備を備え、公開承認施設相当の展示・収蔵環境を実現する計画とします。特に、収蔵庫等の設備は、収蔵される資料の材質や特性に合わせて適切な保存環境を維持できるものとします。
- IPM の手法導入についても検討し、建築や設備面においても十分に留意します。
- 展示室だけでなく収蔵庫の一部や資料整理の様子を公開するなど、博物館活動を可視化します。
- 収蔵資料調査の結果より、現歴史館の資料をすべて新博物館に移設することは難しいと考えられます。新博物館には展示活用する資料や特に厳密な保存環境が必要な資料を収蔵し、その他の資料は館外保管を検討するなど、今後資料の選別を行う必要があります。なお、館外保管の場合においても、管理は基本的に新博物館で行うものとします。

2 多様な利用者が気軽に訪れ、活動・交流する、すべての人にひらかれた施設

- 多様な市民や団体による活動や研究、公開や発表等ができる場を整備します。
- 障がいの有無や年齢・国籍等にかかわらず、より多くの利用者が快適に利用できるよう、救護設備やトイレ等をはじめユニバーサルデザインを前提とする施設整備を行います。
- ビジター向けの観光情報発信をはじめ、これまで利用機会の少なかった乳幼児連れや若年層等も気軽に訪れ、快適に利用できる空間とします。
- 建物についても、JR 土岐市駅利用者や周辺道路からの視認性に留意し、気軽に立ち寄りたくなる外観を目指します。

3 公園・史跡との一体性、周辺環境への配慮

- 織部の里公園や乙塚古墳、段尻巻古墳等との一体性に配慮し、それらの見学時の拠点施設となるよう整備することで、公園や各史跡と連携した事業活動が幅広く展開できるようにします。
- 周辺の居住環境の保全を第一に、安全性に配慮した駐車場の確保および導入路の検討を行います。
- JR 土岐市駅や国道からも分かりやすい施設のあり方やサイン整備についても検討を行います。

2. 施設整備における留意点

- 新博物館の整備候補地は現在の歴史館およびその周辺が想定されていますが、事業推進にあたっては、引き続き近隣住民や土地の所有者等の理解を得ながら進めていく必要があります。
- 出土品の保管と整理作業スペースについては、別棟による配置を含め、組織体制と併せて検討します。
- 作陶等の体験ができるスペースは、既存体験施設の状況等も勘案しながら、収容人数や設備について検討します。

4-2. 施設の機能構成

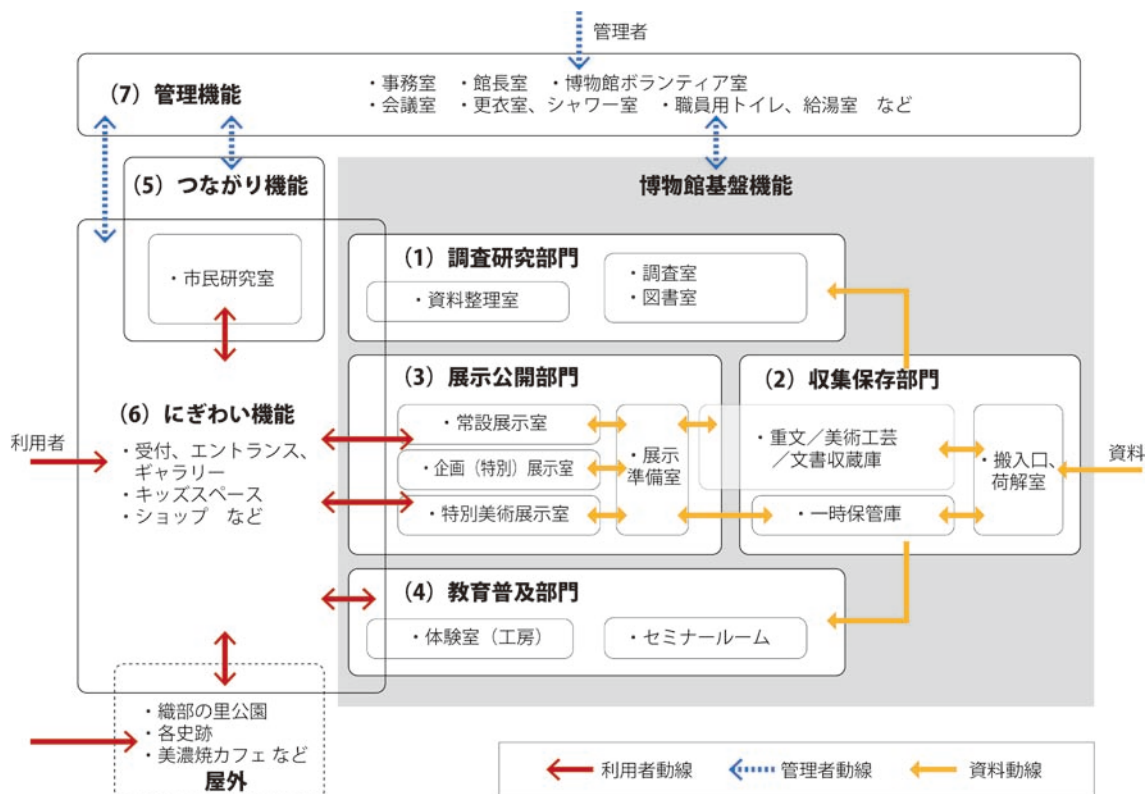
- 事業活動計画の内容をもとに、必要な部門と諸室を以下に整理します。

図表：諸室概要

機能・部門	室名	概要	
博物館 基盤 機能	(1) 調査研究部門	資料整理室	考古・歴史資料の修復・整理・撮影などを行うための設備を備える。
		調査室	調査研究を行うための設備を備える。
		図書室	図書資料を保管・閲覧するための書庫を備える。資料閲覧室を兼ねる。
	(2) 収集保存部門	搬入口、荷解室	資料の搬出入を安全に行うための設備を備える。
		考古／美術工芸／文書等収蔵庫	将来スペース含め種別ごとの収蔵庫を備える。
		一時保管庫	他館からの借用資料を一時的に保管する。
	(3) 展示公開部門	常設展示室	美濃焼と土岐市の歴史・文化をテーマに展開する展示を行う。
		企画(特別)展示室	館所蔵の資料に加え他施設からの借用資料を受け入れ、特色のある企画展示を開催する。
		特別美術展示室	美術品や展示環境に特に配慮が必要な資料を展示する。
		展示準備室	展示の準備作業を行う。展示ケース等を保管する備品倉庫を兼ねる。
	(4) 教育普及部門	セミナールーム	講座・講演の他、学校団体などのオリエンテーションを行う。
		体験室(工房)	様々なワークショップや体験を行うスペースとして、活動に必要な設備を備える。
	(5) つながり機能	市民研究室	市民や多様な活動者が研究に使用できるスペース。参加人数に応じた大小の部屋を用意し、活動拠点として整備する。
(6) にぎわい機能	受付、エントランス、ギャラリー	市民や研究機関等との協働・連携による展示・活動スペース。ライブラリー機能の他、トークイベントやギャラリーなど多目的に使える空間とする。地域情報発信スペースも兼ねる。	
	キッズスペース	主に未就学児が安全に楽しく遊べる場とする。	
	ショップ	美濃焼や図録等の販売を行う。	
(7) 管理機能	事務室、館長室、博物館ボランティア室、会議室、更衣室・シャワー室、職員用トイレ、給湯室など		
共用部・その他	トイレ(多目的用含む)、授乳室、警備員室、倉庫、その他(廊下・風除室・EV・機械室等)など		

- 諸室を構成する各機能・部門の構成と連関のイメージを以下に示します。
- 利用者動線の入口となる部分に「つながり機能」を配置し、各機能・部門とゆるやかにつながります。新博物館の顔として交流やにぎわいの核となるよう、各機能・部門での活動の様子や雰囲気が伝わるような諸室配置を検討します。
- 利用者動線と管理者動線・資料動線は、運営上交錯しないよう計画します。特に資料動線上においては、安全性はもちろんのこと、IPMを行う上で必要な施設内の区画や設備・配管上の対策についても配慮します。

図表：機能構成イメージ



第5章 展示計画

5-1. 展示全体の考え方

1. 基本方針

- 新博物館における展示について、以下の方針のもとに推進します。

1 「美濃焼」「土岐市の歴史・文化」をテーマとし、 それをつくった人々の営みを基礎とする展示

- 1400年続く美濃焼の歴史と本市の歴史・文化や自然について、それらを支えてきた人々の営みを基礎として学べる展示を基本とします。
- 美濃焼や美術品については、モノの美しさや魅力を鑑賞できる設備を備えます。

2 子どもたちや障がい者など誰もが学び、楽しめる展示

- 見るだけでなく、触る・聴くなどの体験要素やデジタル技術等を取り入れ、子どもたちや障がい者にも分かりやすく、直感的に学べる手法を取り入れます。
- 子どもや車いす利用者の目線の高さに合わせた展示や車いす同士でもすれ違える通路幅の確保、色弱者にも見やすいサイン・グラフィックなど、ユニバーサルデザインに配慮した展示を行います。
- 本市全体にとどまらず、合併前の地区ごとの成り立ちや文化などにも触れ、特に子どもたちがふるさと学習の場として活用できる展示とします。また、各地区への回遊を促す地域情報の発信機能も強化します。

3 市民や多様な活動者との協働・連携の成果を活かした展示

- 市民や地域団体、研究機関など多様な活動者との協働・連携の成果を活かした展示を行います。協働・連携による展示テーマの拡充が期待される他、展示公開を通じて新たな活動や交流の創出などが期待されます。
- 市民や多様な活動者が気軽に展示を行えるシステム等を整備します。

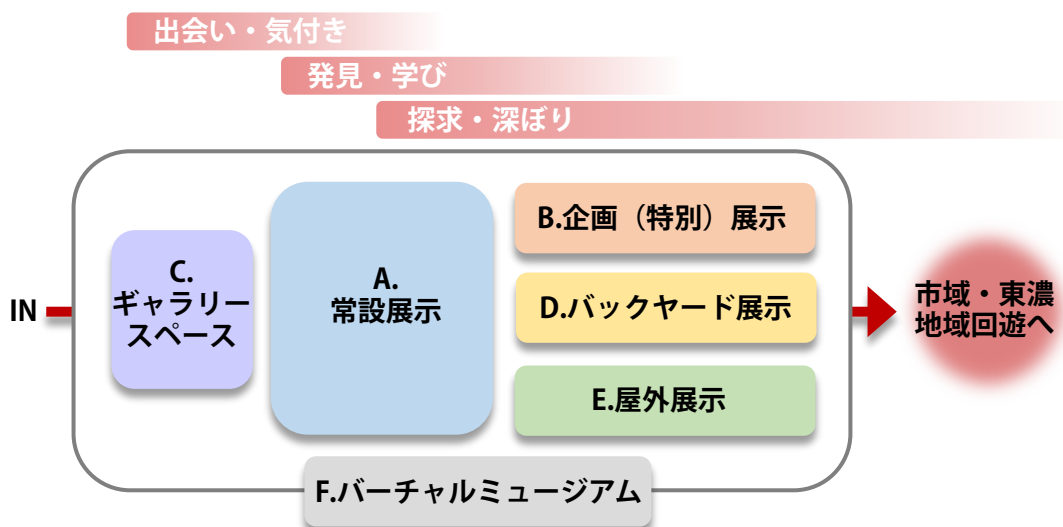
4 資料やテーマに応じてフレキシブルな展開を可能とする、更新性に優れた展示

- 発掘や調査研究の進展により、収蔵資料の増加や展示情報の更新が必要になることから、常設展示をはじめとする各展示において定期的な更新を行い、展示が固定的にならないよう配慮します。
- ケース内の資料にとどまらず、展示テーマ自体の更新も可能なフレキシブルな設備を検討します。また、展示替えのしやすいケースやシステムを採用する他、維持費の低減等にも配慮した設計を行います。

2. 展示の全体ストーリー

- 新博物館の特色ある展示を見ることで、美濃焼や本市の歴史・文化に対する興味・関心がだんだんと高まり、まち全体に点在する様々な文化資源に触れてみたいくなるような展示を目指します。
- 「ギャラリースペース」での出会いや気づき、「常設展示」での新たな発見や学び、そしてそれをさらに探求し、深ぼりする展示として「企画（特別）展示」や「バックヤード展示」「屋外展示」を展開します。
- ネットワーク上で気軽に楽しめるコンテンツとして、また、学校団体等の見学における事前・事後学習のツールとして、「バーチャルミュージアム*」の充実化も図ります。

図表：展示の全体構成



A. 常設展示【常設展示室＋特別美術展示室】

<テーマ>「美濃焼ってなに?」「美濃焼が1400年も続いてきたのはなぜ?」
その理由を解き明かす

<ねらい>市民:「ふるさとを知り、自身や土岐市の現在・未来を描くための出発点」
ビジター等:「美濃焼と土岐市について知り、魅力と出会うきっかけ」

<内容>展示①:1400年続く美濃焼の歴史とその背景にある地理、風土、人々の営みを知る手がかりとなる展示【常設展示室】

展示②:美濃桃山陶、二宮コレクション、指定文化財の書跡や絵画を鑑賞する展示【特別美術展示室】

- 常設展示室と特別美術展示室の2室からなり、特別美術展示室は特別展示にも使用し、重要文化財や陶磁器以外の美術品（漆芸、絵画、染織など）、古文書等の展示環境に配慮した資料の展示を行います。
- 常設展示は企画（特別）展示の情報や成果を盛り込み、更新・成長し続けていく展示とします。

B. 企画（特別）展示【企画（特別）展示室＋特別美術展示室】

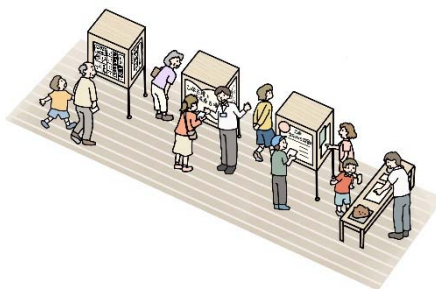
<テーマ>本市の歴史、土岐郡の歴史、美濃焼の歴史を多様な視点で取り上げる

<ねらい>「多様なテーマの展示を通じ、自身の興味や見識を深め、広げる」

- 企画内容に合わせ、新たな調査研究・資料収集を行い、文化資源を蓄積します。その成果を常設展示の更新につなげるとともに、アーカイブとして公開するなどし、文化資源が様々な活用されることを目指します。

C. ギャラリースペース【エントランスホール】

- 新博物館との出会い・交流の場として、市民協働の展示や多様な活動者による研究・活動成果等の公開を行います。また、市域や東濃地域回遊を促す地域情報発信スペースも設けます。



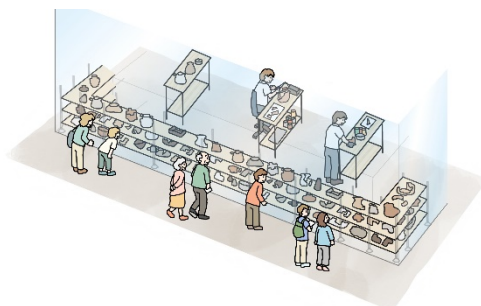
活動成果の公開・発表



市内観光スポット等の紹介

D. バックヤード展示【収蔵庫・資料整理室】

- 収蔵庫の一部を公開し、元屋敷窯跡出土の2,431点の重要文化財ならではの迫力を伝える収蔵展示を行います。
- 発掘調査による出土品の整理作業を公開します。



収蔵庫の一部を公開

E. 屋外展示

- 新博物館を起点に元屋敷窯跡や乙塚古墳、段尻巻古墳、隠居山遺跡の周遊を促す展示を行います。
- 新博物館内での紹介の他、現地における屋外サイン・グラフィックの整備、また、ICT※等を活用した体験など、展示手法についても今後検討します。



ICTを活用した展示解説

F. バーチャルミュージアム

- 常設展示や企画（特別）展示で調査研究・収集した情報をアーカイブとして公開し、ネットワークを介し個々人が館内外から閲覧できるものとします。
- 特に、作り手（クリエイター）をはじめとする美濃焼に携わる人々へ向けて、美濃焼の歴史・文化のアーカイブ化および発信を通じ、その活動を支援します。
- 昨今の新型コロナウイルス感染症の流行等を踏まえ、バーチャルミュージアム上で閲覧・体験できるコンテンツの充実化についても検討します。

5-2. 常設展示における展開テーマ

- 常設展示で扱うテーマは以下のとおりです。日本や本市の時間軸に美濃焼 1400 年の歴史軸を重ね、その背景にある地理、風土、人々の営みをテーマに展開します。
- 子どもたちや市民に向けては、まちへの愛着を持つきっかけとなる展示を、本市を訪れる人々に対しては美濃焼や本市の歴史・文化に魅力を感じ、再び訪れたいと思ってもらえるような展示を目指します。
- 展示内容や手法については、今後具体化を図ります。

図表：展開テーマ例

時代	美濃焼の歴史	展示で扱う主なできごと	
		<ul style="list-style-type: none"> • 土地の成り立ち • パレオパラドキシア・タバタイ 	
先史		<ul style="list-style-type: none"> • 縄文・弥生 • 市内の古墳 	
飛鳥	須恵器	<ul style="list-style-type: none"> • 美濃焼の始まり 	<ul style="list-style-type: none"> • 乙塚古墳 • 古代の土岐郡
奈良			
平安	灰釉陶器	<ul style="list-style-type: none"> • 美濃焼、窯業地として定まる 	<ul style="list-style-type: none"> • 土岐氏の始まり
鎌倉	山茶碗	<ul style="list-style-type: none"> • 美濃焼大量生産の時代 	<ul style="list-style-type: none"> • 土岐氏と禅宗文化 • 土岐明智氏 • 妻木城・妻木平遺跡
室町	古瀬戸系 施釉陶器	<ul style="list-style-type: none"> • 瀬戸陶工の移動 	
安土	大窯	<ul style="list-style-type: none"> • 元屋敷窯と美濃桃山陶 • 陶祖加藤景延 	<ul style="list-style-type: none"> • 妻木氏
桃山			
江戸	連房式登窯	<ul style="list-style-type: none"> • 江戸庶民向けの日常食器生産 • 磁器生産の始まり • 窯株と仲買株 	<ul style="list-style-type: none"> • 中馬街道と下街道 • 信仰（陶製狛犬）
明治	近代	<ul style="list-style-type: none"> • 美濃焼の近代化 	<ul style="list-style-type: none"> • 駄知鉄道
大正		<ul style="list-style-type: none"> • 美濃桃山陶の再発見 	
昭和	現代	<ul style="list-style-type: none"> • 戦中～戦後の復興 	<ul style="list-style-type: none"> • 土岐市誕生 • 二宮コレクション
平成			
令和			

第6章 管理運営計画

6-1. 管理運営の考え方

- 「開かれた扉」としての新博物館の実現へ向け、現状の歴史館の運営状況等を踏まえながら、より充実した博物館活動ができるよう人員体制や市民参画のしくみを検討し、持続的且つ効果的な施設運営を行います。

1. 運営形態

- 歴史館の運営は、本市からの委託を受けて2013（平成25）年より「公益財団法人土岐市文化振興事業団」によって行われています（前身の組織である財団法人土岐市埋蔵文化財センターによる運営は1994（平成6）年より開始）。新博物館においても運営形態については踏襲する見込みです。
- 現在、旧文化会館に設置され、古文書を取り扱っている史料整理室の位置づけについては、資料の一括管理・活用の観点から今後検討を行います。
- 開館日・時間、入館料等についても現状の方針を維持すると考えられますが、利用者ニーズ等踏まえ、今後基本計画にて詳細を検討することとします。

■現状の開館形態

- 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日、年末年始、展示替え期間
- 開館時間：10:00～16:30（入館は16:00まで）
- 入館料：一般200円、大学生100円、高校生以下無料、その他団体料金割引、障がい者割引あり

2. 組織

- 本市の文化資源に関する調査研究をはじめ、市民との協働・連携事業や教育普及事業の充実化にあたっては、組織・人員体制における強化は必要不可欠で、展示や研究テーマに即した専門性の高い人員（学芸員・エドゥケーター※）の育成・計画的配置を中長期的に進めていくことが重要です。

3. 協働・連携のしくみ

- 新博物館では新たに「つながり機能」を備え、市民や大学、研究機関等と様々な博物館活動を協働・連携して展開することを一つの大きな方向性としています。協働・連携のしくみについては組織化含め新博物館の開館前より検討し、事業の試行等を行いながら持続可能なあり方をさぐっていきます。

4. その他

- 飲食や物販、イベント等の新たな集客・収益事業についても検討します。
- 施設運営については、観光や産業など他部局・諸機関との連携も図りながら行い、まちづくりへ資する施設を目指します。
- 新博物館が対象とするテーマの拡大に加え、市民により親しみを持ってもらうため、新博物館の愛称についても検討を行います。

第7章 今後の事業推進に向けて

7-1. 今後の検討課題

- 本構想では、新博物館における基本的な考え方について整理を行いました。今後、特に基本計画においては、事業活動や施設、展示、管理運営などの各計画についての具体化を図り、本市ならではの特色ある施設を検討していくことが重要です。

1. 施設規模の確保および建設予定地の選定

- 本構想に位置づけられた活動を円滑に行っていくため、p.35 で示した機能や諸室について、十分な規模を確保することが重要です。本市の財政状況を勘案しながら、最適な施設規模について検討します。
- 新博物館の建設地については、現在の歴史館周辺が想定されています。今後、近隣住民や土地の所有者等と協議を重ねながら、上記施設規模と併せて整備エリアを選定していく必要があります。

2. 市一体の事業推進

- 新博物館は「開かれた扉」としての役割を担い、まちの活性化やにぎわい創出をはじめとする本市の地域的・社会的課題の解決に寄与する施設として期待されています。
- そのためには博物館単体ではなく市一体の取組が求められ、本市および新博物館が担う範囲や役割を現実的な視点から明確にすることが重要です。たとえば、JR 土岐市駅から新博物館までのアプローチや市域回遊にあたってのサイン整備などについても、庁内各部局間の課題共有・横断的な取組が必要となります。

3. 市民や多様な活動者との協働・連携に関する基盤づくり

- 持続可能な博物館を実現するため、本構想において、いくつかの市民活動団体へヒアリングを実施しました。今後も団体等へのヒアリングをはじめ、展示・体験プログラムの試行など、協働・連携に向けた具体化や基盤づくりを進めます。
- また、新博物館整備事業の PR を兼ねて、市内で行われるイベント等へ出展し市民との接点を増やすなど、新博物館の機運醸成も図っていきます。

4. 土岐市ならではの新博物館整備に向けて

- 本市や美濃焼の魅力を伝える新たな施設として、新博物館の整備事業は今後さらに多くの注目や期待を受けることが予想されます。本構想で整理した基本的な考え方をベースに、次の基本計画では本市ならではの、本市だからこそできることは何かを具体的に検討し、新博物館のセールスポイントを際立たせていくことが重要です。
- 特に、展示や活動においては施設ごとの個性や特徴が表われやすいため、他にはない、何度でも訪れたいくなる工夫や取組が望まれます。展示テーマをはじめ、子ども向け教育プログラムの充実や多くの観光客に合わせた企画を打ち出すなど、戦略的な計画・発信も必要となります。
- 美濃焼の産地は4市にまたがり、美濃焼関連施設が点在していることから、それらを有機的に結びつけ、ビジターがまず訪れる玄関口としての施設が必要です。本市は美濃焼産地の中央に位置し生産の中心でもあること、また、桃山文化を代表する美濃桃山陶生産という歴史的背景から、本市の新博物館が美濃焼のランドマークとなることを目指します。

7-2. 事業スケジュール

- 今後の事業スケジュールを、以下のとおり想定します。
- 本構想で整理した基本的な考え方をもとに、施設規模や必要諸室、展示内容、運営管理などの詳細化を図る基本計画を令和4年度に策定予定です。また、本構想時に実施したパブリックコメント※のように、市民からの意見やアイデアを募集する機会を適宜設けます。
- その後は基本設計、実施設計、敷地造成工事、建物工事、展示工事と進むことが一般的ですが、本市の新博物館においても、市民の理解や協力を得ながら着実な事業推進を行うことが望まれます。

図表：事業スケジュールイメージ

令和3年度	基本構想
令和4年度	基本計画
令和5年度～	基本設計、実施設計（展示／建築） 敷地造成工事、建物工事（枯らし期間※含む）、展示工事

資料編

土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想検討委員会 概要

1. 委員会設置要綱

（趣旨）

第 1 条 この要綱は、土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想に係る検討委員会に関し、必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第 2 条 土岐市文化財保存活用拠点（仮称）が目指すべき基本理念・活動方針・施設内容をはじめとする基本構想を策定するため、土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織）

第 3 条 委員会は、委員 15 名以内で組織し、次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱し、又は任命する。

- （1）学識経験を有する者
- （2）関係する団体の代表者
- （3）前 2 号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

（委員長及び副委員長）

第 4 条

- 1 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は委員の互選によってこれを定める。副委員長は、委員長が指名する。
- 2 委員長は委員会を招集し、これを主宰する。
- 3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（オブザーバー）

第 5 条

- 1 委員会にはオブザーバーを置くことができる。
- 2 オブザーバーは、委員会の求めに応じて会議に出席し、意見を述べることができる。

（作業部会）

第 6 条 委員会は、調査及び協議を行うための作業部会を設置することができる。

（事務局）

第 7 条 委員会の事務局は、教育委員会文化スポーツ課に置く。

（委任）

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が別に定める。

（附則）

この要綱は、令和 3 年 5 月 1 日から施行し、土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想が策定されたときにその効力を失う。

2. 委員一覧

	出身団体・役職等（令和3年度時点）	氏名
委員長	愛知県陶磁美術館 総長 町田市立博物館 館長	伊藤 嘉章
副委員長	南山大学 教授	黒澤 浩
委員	文化財保存支援機構 理事長	三輪 嘉六
委員	土岐市文化財審議会 会長	黒田 正直
委員	美濃陶芸協会 顧問	林 恭介
委員	岐阜県現代陶芸美術館 学芸係長	花井 素子
委員	土岐商工会議所 副会頭	石黒 信彦
委員	土岐市観光協会 理事	後藤 清
委員	土岐市立濃南中学校 校長	本多 直也
委員	土岐市連合自治会長	瀬瀬 健二
委員	市民代表	北邑 栄利子
委員	市民代表	大島 里美
オブザーバー	土岐市 市長公室長	林 洋昭
オブザーバー	土岐市 地域振興部長	水野 健治
オブザーバー	（公財）土岐市文化振興事業団 学芸員 調査係長・学芸係長	中嶋 茂
オブザーバー	（公財）土岐市文化振興事業団 学芸員 主査	春日 美海

（計 委員 12 名／オブザーバー 4 名）

3. 開催概要

●第1回 土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想検討委員会	
日時	令和3年7月26日（月）10:00～12:00
場所	土岐市役所3階 大会議室 3A・3B
次第	1. 開会 2. 土岐市長あいさつ 3. 委員紹介 4. 委員長・副委員長選出 5. 議題 (1) 委員会の進め方、議題について (2) 市および美濃陶磁歴史館の現状と議題 (3) 新施設の方向性 6. 土岐市教育長あいさつ 7. 閉会

●第2回 土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想検討委員会	
日時	令和3年10月11日（月）14:30～16:30
場所	土岐市役所2階 大会議室 2A
次第	※開会前に美濃陶磁歴史館の視察を実施 1. 開会 2. 土岐市教育委員会事務局長あいさつ 3. 議題 (1) 第1回基本構想検討委員会振り返り等について (2) 新博物館の方向性について (3) 事業活動計画について (4) 先進事例調査資料について 4. 閉会

●第3回 土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想検討委員会	
日時	令和3年12月6日（月）10:00～12:00
場所	土岐市役所2階 大会議室2A
次第	1. 開会 2. 土岐市教育長あいさつ 3. 議題 (1) 第2回基本構想検討委員会振り返り等について (2) 基本構想目次（案）について (3) 基本構想素案（第1章～第3章）について (4) 施設計画について (5) 展示計画について (6) 管理運営計画について 4. 閉会

●第4回 土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想検討委員会	
日時	令和4年1月25日（火）9:30～11:30
場所	土岐市文化プラザ3階 第5研修室
次第	1. 開会 2. 土岐市教育長あいさつ 3. 議題 (1) 第3回基本構想検討委員会振り返り等について (2) 基本構想素案について 4. 閉会

協働・連携に関するヒアリング

- 新博物館における市民や地域団体等との協働・連携の在り方を検討するため、市内で活動中の団体に向けてヒアリングを実施しました。

1. 開催概要

実施日	令和3年12月17日（金）14:00～15:00
対象	まちづくり推進部（4名）
場所	土岐市役所2階 大会議室 2A

実施日	令和4年1月13日（木）13:30～14:30
対象	美濃焼おかみ塾（2名）
場所	土岐市文化プラザ2階 第2研修室

実施日	令和4年1月13日（木）15:00～16:00
対象	土岐市観光ガイドの会（4名）
場所	土岐市文化プラザ2階 第2研修室

2. ヒアリング概要

所属団体の活動内容について	<ul style="list-style-type: none">● 団体概要（活動の目的・目標／活動を始めた経緯／活動者数・年齢層・男女比／活動場所・頻度など）● 活動の中で感じている課題● 他団体とのつながりや連携● 活動者数を増やす取組● 活動に係る費用の捻出方法等について など
歴史館について	<ul style="list-style-type: none">● 歴史館に対する印象● 歴史館に関する企画検討の有無 など
新博物館について	<ul style="list-style-type: none">● 活動を行う上で、必要となる機能や設備● 新博物館に期待する役割● 新博物館と協働で実施できそうな企画 など

パブリックコメント

- 土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想案を以下のとおり公表し、市民の皆さんなどからの意見を募集しました。それらの意見・要望等を参考に、本構想を取りまとめました。

実施期間	令和4年2月18日～3月3日（14日間）
実施方法	担当窓口及び各支所窓口での閲覧・配布 土岐市ホームページへの掲載
寄せられた意見数	2

(参考) 用語集

- 本構想内に使用されている用語について整理します。なお、下表内の解説は、本文中の文脈や博物館関連での使用を想定するものとします。

	用語	解説
あ行	エデュケーター	博物館において、教育普及（博物館と利用者をつなげる役割）を担う専門的な知識・技能をもった人材。
	オンラインコンテンツ	ネットワークを通じて提供される博物館の展示やプログラムの総称。コロナ禍において広く普及した。
か行	枯らし期間	建築工事完了後に、文化財の収蔵・展示空間の空気を清浄化するために設ける乾燥期間。
	岐阜県博物館協会東濃ブロック部会	岐阜県博物館協会に加盟する東濃地方所在の博物館 31館からなる地区部会。研修会や公開講座を実施。
さ行	サイン・グラフィック	館内の案内表示や誘導表示、展示室内の解説パネルなど、利用者に分かりやすく情報を伝えるもの。
	サステナビリティ	環境・社会・経済等を将来にわたって続けられるシステムや考え方。
	出張展示	博物館の展示や体験を、施設の外へ持ち出し展開すること。アウトリーチとも呼ばれる。
た行	第三の居場所	自宅や学校・職場とは別の、居心地のよい場所。サード・プレイスとも呼ばれる。
	デジタルアーカイブ	アーカイブとは、将来にわたって保存する歴史的価値のある資料を記録し、保存することをいう。資料のアーカイブをデジタル方式で行うことにより、ネットワークを通じた公開・利活用も容易となる。
	東濃西部陶磁資料館ネットワーク会議	多治見市、瑞浪市、可児市および土岐市に所在する8館が加盟する陶磁系ミュージアムを対象とした会議体。
は行	ハンズ・オン展示	展示物を見るだけでなく、実際に触れて体験学習ができる展示手法。
	バーチャルミュージアム	ネットワーク上の仮想空間に作られた博物館。場所を選ばず自宅にいながらでも楽しめるため、コロナ禍で大きく注目された。

	バックヤード	博物館において、収蔵エリアや管理エリアなど、利用者の立ち入りを制限・禁止している場のこと。
	パブリックコメント	自治体が策定中の計画等に対し、広く一般から意見や情報を収集すること（意見公募）。
	ふるさと発見体験事業	土岐市教育委員会で実施している、土岐市の子どもたちにふるさとの歴史や文化に親しんでもらうことを目的とした事業。美濃陶磁歴史館ではこの事業のための教育プログラムを作成し、市内の小中学校団体の利用を受け入れている。
ま行	マイクロツーリズム	自宅から1～2時間程度の近距離観光のこと。コロナ禍で一層注目された考え方で、地域活性化の観点からも有用と考えられている。
や行	ユニークベニュー	歴史的建造物や博物館等で会議やイベントを行うなど、本来の用途とは異なるニーズに応じて特別に貸し出される会場や取組のこと。
	ユニバーサルデザイン	年齢や国籍、障がいの有無等に関わらず、できるだけ多くの人が利用できるようにデザインすること。
A	AI 技術	AI（人工知能）。人間が行う知的活動を、コンピュータを用いて人工的に再現する技術のこと。
I	ICT	情報通信技術。IT にコミュニケーションの要素を含めたもので、その技術の使い方や活用方法なども含む。
	IoT	様々な身の回りのモノがインターネットにつながるしくみや技術。
	IPM	総合的有害生物管理。できるだけ薬剤に頼らずに生物被害を防止する文化財管理技術で、建築や設備、運営管理等の総合的な工夫により虫菌害を防止する。
S	SDGs	世界中の環境・差別・貧困問題などを解決するための持続可能な開発目標。
V	VR	仮想現実。コンピュータで作られた仮想空間などを現実的であるかのように疑似体験できるしくみや技術。

土岐市文化財保存活用拠点（仮称） 基本構想

発行年：令和 4 年 3 月

編 集：土岐市教育委員会

岐阜県土岐市土岐津町土岐口 2101 番地

TEL 0572-54-1111（代表）